

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	生徒がそれぞれのニーズに応じて自立し、主体的に社会参加することができるよう、生徒一人ひとりを理解し、必要な知識、技能等を培うとともに、豊かな心と健やかな体を育む。
(2) 現状と課題	肢体不自由、重度重複障がい、知的障がいのある生徒が在籍しており、それぞれに対応する教育部を設けて指導している。障がいの重度・重複化や生徒の教育的ニーズ及び進路希望等が多様化している中、卒業後、生徒が地域社会で活動できる力を身に付けるようにすることが課題となっている。
(3) 重点目標	1 主体性を引き出す授業の充実 2 キャリア教育の推進 3 教育活動の質の向上
(4) 結果の公表	学校評価結果を保護者に配布するとともに、学校ホームページに掲載する。

学校整理番号	特9
学校名	青森県立青森第一高等養護学校
対象障害種別	視覚・聴覚・知的・ 肢体 ・病弱

自己評価実施日	令和 7年 1月28日(火)
学校関係者評価実施日	令和 7年 2月 5日(水)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
学校運営協議会委員(校長を除く9名)	
地域住民・地域公共施設館長	4名
障がい者支援機関	1名
障がい者就労支援機関関係者	1名
教育関係者(元職員)	1名
保護者(PTA会長、元PTA会長)	2名

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	・振り返りを大切にした授業 ・教職員間の連携 ・ICT活用した授業の推進	・ねらいを明確にし、振り返りを大切にした授業づくり ・目標を共有化した教職員の協働による授業 ・GIGAスクール対応の端末を活用した授業づくり	・振り返りを重視した授業づくりを行うとともに、教職員間でねらい、目標を共有した授業を実施した。 ・地域の関係業を活用したICT活用に関する外部講師を招聘した校内研修会、県外視察を実施したほか、各教育部の課題に応じた活用に関する校内研究を実施した。	B	・よりよい授業づくりを進めるためにも、先生方の余裕が大切。仕事の効率化など具体的な形を示す必要がある。 ・ICTを活用した取組は、教える側の準備、使う方の理解が大切である。	・学習指導要領や教育課程に沿った計画的な授業づくり、ICTを活用した授業づくりを教職員の協働で行う。 ・業務の整理や効率化を進め、教材研究の時間を確保する。 ・組織での対応を基本に、教職員間のコミュニケーションを重視して業務を遂行する。
2	・進路指導の充実 ・キャリア教育の実践 ・生徒主体の授業づくり	・生徒の生き方や夢をかなえるための進路指導 ・地域資源を活用した、より将来像をイメージできるキャリア教育 ・生徒の意見を取り入れた行事運営	・生徒、保護者、関係機関との連携を密にし、生徒や保護者の意向を尊重しながら進路指導を進めた。 ・地域の関係機関の協力を仰ぎ、産業現場等における実習、校外での体験学習、外部機関を活用した出前授業を実施した。 ・生徒会役員を中心とし、生徒の意見を取り入れた行事運営を行った。	A	・家庭や関係者に寄り添った対応を継続することが大切である。 ・生徒のニーズに合わせた進路指導を丁寧に行ってほしい。 ・外部講師の活用を活発に行ってほしい。	・行事や実習については、生徒・保護者に事前・事後の流れに見通しがもてるよう、情報等を丁寧に説明し実施する。 ・学校からの一方的な伝達にならないよう、生徒や保護者の思いを受けとめ、教職員や家庭、関係者と共有しながら進める。
3	・安全・安心な環境づくり ・知肢併置校の特色を生かした教育 ・地域資源を活用した教育活動	・津波ハザードマップに対応した避難訓練の実施 ・教育部を超えた学習や活動の場の設定 ・学校運営協議会や学校独自ブランドを活用した教育活動の展開	・津波対応避難訓練を実施し、課題を検討することができた。 ・教育部を超えた担当者連携による教科指導や作業学習への参加、生徒会活動や委員会活動が実施できた。 ・ティネイブランド展示や地域活動(かかしロード、市民センターまつり、油川駅清掃)へ参加することができた。	A	・冬期間の避難、津波対応避難については、具体的な行動を示すとともに、最悪な事態を考えて改善を重ねてほしい。また、垂直避難のための施設整備を県に要望することも必要。 ・青森駅自由通路でのティネイブランド等の展示、地域活動への参加など、活動を広げながら取り組んでほしい。	・知肢併置校に合った安心・安全な学校を目指し、教育部・分掌からの要望を総合的に判断して環境づくりをしていく。 ・関係各所と連携し、様々な状況に応じた避難を検討し、訓練を重ねていく。 ・学校運営協議会委員など外部の意見を参考にしていく。

(11) 総括	<ul style="list-style-type: none">・自己評価は4点満点で平均が3.39となり、前年度とほぼ同じで概ね良好である。人事異動で職員が入れ替わる中での職員間の共通理解、連携、コミュニケーションの重要性が窺える。・保護者アンケートでは、4点満点で平均が3.58となり、前年度より0.22ポイント上昇し、概ね良好である。昨年度に引き続き「医療や福祉等との連携」について「わからない」の回答が多く見られた。各機関と連携していること等について、丁寧に伝えていく必要がある。・学校経営方針の重点事項である「主体性を引き出す授業の充実」を推進するためには、教職員間の連携をより一層充実させるとともに、生徒の実態に応じた「わかる授業づくり」を進めていくことが重要である。また、そのためには、並行して業務内容の整理や効率化等を進め、先生方の教材研究等にかける時間を増やしていく必要がある。・家庭や関係機関との連携について、家庭によっては情報共有が不十分と感じていることもあり、情報発信や情報共有の在り方を検討する必要がある。・災害時の避難、対応については、市や町内会、福祉避難所等との連携を含め、災害時の対応について引き続き検討していく必要がある。・教職員間の連携を深めた授業づくりによる「授業の充実」、家庭、関係機関との連携を大切とした「キャリア教育の推進」については、引き続き次年度の課題として、教育活動の改善と円滑な学校運営に努めていきたい。
---------	---